

偏光フィルム事業を分社化し、新会社を設立

日東電工(株)は「グローバルニッチトップ」の経営戦略のもと、ニッチ市場に経営資源を集中投下して、数多くの世界トップシェア製品を生み出してきた。その代表的な製品が、特殊な光学特性を持ったLCD(液晶表示装置)の基幹部品である偏光フィルムである。日東電工の台湾現法である台湾日東光学(股)は、今年10月、台湾日東電工(股)の偏光フィルム事業を分社化する形で設立された。今回は台湾日東光学の西本武史総経理に、新会社設立の背景や今後の展望等についてお話を伺った。

台湾日東光学(股)
西本武史総経理



偏光フィルム事業を分社化し、新会社を設立

台湾日東光学(股)は今年10月、日東電工(株)の台湾現法である台湾日東電工(股)の偏光フィルム事業を分社化する形で設立しました。台湾日東電工は1969年に日東電工グループ初の海外拠点として高雄に設立され、主に塩化ビニールテープ、ポリエステルテープ等の製造を行っています。

偏光フィルムは10年程前から高雄工場のクリーンルームで加工を行ってきましたが、台湾での需要増に対応するため、2000年4月に台中にも加工工場を設立しました。そして今般、この台中工場を分社化する形で、台湾日東光学を設立しました。台中に本社工場を構えるほか、台北市内に営業本部を設置しており、総従業員数は約500名です。

偏光フィルム事業を分社化した目的は、急速に発展する台湾液晶パネル産業に対応すべく、独立した企業体として迅速な意思決定を行うためです。特に台湾ではビジネスのスピードが日本よりも格段に速いので、当社としても顧客である台湾のパネルメーカーとともに歩んでいくために、迅速な経営判断が行える体制を整えていきたいと考えています。

世界シェア60%のトップメーカー

偏光フィルムとは特殊な光学特性を持ったLCD(液晶表示装置)の基幹部品ですが、日東電工は約60%の世界シェアを持つ、偏光フィルムのトップメーカーです。現在、日本国内では広島県尾道市と愛知県豊橋市の事業所で偏光フィルムの生産を行っています。

急増する大型液晶テレビの需要に対応するため、現在、生産能力の増強計画を進めています。既存工場のラインを増設している他、尾道事業所内に新たに約80億円を投じて新工場を設立し、2004年4月からの稼働開始を予定しています。この他、三重県亀山市にも新工場を建設中ですが、稼働時期を当初予定の2004年4月から1月に前倒する計画です。これら一連の生産能力増強計画により、偏光フィルムの年産能力を前年度比8割増に引き上げる計画です。

一方、台湾日東光学では日本国内で製造した偏光フィルム材料の貼り合わせ、加工、裁断を手がける後工程を担当しています。台湾における後工程に関しても生産能力の増強を計画しており、第五世代サイズの後工程設備の導入も検討しています。

日本企業から見た台湾

「グローバルニッチ・トップ」を生む技術力

日東電工では1996年以来、独自技術を生かしニッチ市場でのトップシェア獲得を目指す「グローバル・ニッチ・トップ」戦略を打ち出しています。現在、偏光フィルムなど合計12品目の世界シェアトップ製品の擁していますが、更に今年、「グローバル・ニッチ・トップ」の数を倍増させる目標を策定しました。

当社の「グローバル・ニッチ・トップ」戦略の中心となるのは、特定分野における高い技術力です。偏光フィルムに関しても、当社では製品の研究開発から製造、加工、販売まですべて自社で行っており、これが当社の偏光フィルムの競争力を生み出しています。

また液晶テレビ用等のハイエンドのパネルに用いられる偏光フィルムには視野角の拡大や輝度・色彩のコントロールといった高い性能が求められますが、この視野角拡大や輝度向上には、位相差板や輝度向上システムが使用されます。これらも偏光フィルムと並んで、当社の「グローバル・ニッチ・トップ」製品です。

「グローバル・ニッチ・トップ」を維持するためには、顧客と密接な関係を築き、顧客のニーズをくみ取ることが不可欠です。そこで顧客と日常的なコンタクトが重要になりますが、台湾日東光学の技術部門がこの役割を担っています。これまで台湾顧客との技術ミーティングは主に日本で行っていましたが、台湾日東光学に技術部門を設置してから顧客と頻繁に技術的な打ち合わせが出来るようになり、研究開発のスピードアップにも繋がっています。

日本と中国の強みを活用できる台湾

現在、液晶パネル産業の中心は日本、台湾、韓国であり、将来的にはこれに中国を加えた4ヶ国が液

晶パネル産業の中心的役割を果たすと考えています。この中で、台湾は日本と中国の双方のリソースを活用できる有利な地位にあります。

まず、台湾の液晶パネルメーカーや部材メーカーの多くは日本企業と技術提携しており、日本企業の高い技術力を活用することができます。一方で、台湾のパネルメーカーは労働集約的なモジュール工程については既に中国で生産を行っており、中国の低廉な生産コストも活用することが出来ます。そこで台湾は日本と中国の間の要の役割を果たす、重要なエリアであると考えています。

将来的には、台湾のパネルメーカーは汎用品の小型パネルに関しては、パネル自体の生産も中国で行うことになると思われます。しかしモニターやノートパソコンのハイエンド製品や液晶テレビに用いられるパネルの製造は、今後も台湾国内で発展すると思われます。そこで今後はハイエンドが台湾、汎用品が中国と言う分業体制になっていくのではないのでしょうか。

グローバル・ニッチ・トップ
日東電工の世界シェアトップ製品

1. 液晶用偏光フィルム	7. 磁気抵抗ヘッド用薄膜金属回路基板
2. 液晶用位相差板	8. 電子部品搬送用テープ
3. 液晶用輝度向上システム	9. 熱はく離シート
4. 半導体封止用透明樹脂	10. 自動車用塗膜保護フィルム
5. 半導体洗浄用逆浸透膜	11. セラミックバーコードラベル
6. ウェハー保護・固定用テープ	12. ぜんそく治療薬

(出所) 日経産業新聞 2003年9月30日